

令和8年度第1回適正使用調査会
資料

令和7年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業

「在宅・小規模医療施設における適正・ 安全な輸血」を確立するための好事例 掘り起こしと詳細調査

茨城県合同輸血療法委員会
(代表世話人) 長谷川雄一



茨 ひより
(茨城県公認VTuber)

茨城県合同輸血療法委員会について

【設置目的】茨城県内の医療機関における適正かつ安全な輸血医療の向上を図る。(設置要項第2条)

【設置年度】平成22年4月

【構成委員】(代表世話人:茨城県血液センター所長 長谷川雄一、事務局:茨城県保健医療部薬務課)

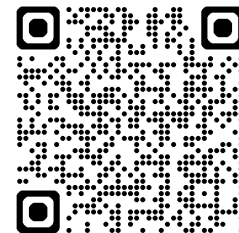
- (1) 県内の主要医療機関の輸血療法委員会の代表者 (2) 茨城県医師会の関係役員
(3) 茨城県輸血・細胞治療ネットワークの関係者 (4) 茨城県赤十字血液センター所長
(5) 茨城県保健福祉部薬務課長 など 計19名

【主な活動内容】

- | | | |
|--|---|---------------------|
| (1) 県内の血液製剤の適正使用に係る問題点の
とりまとめと対応方針の検討 | } | ・血液製剤使用施設における使用実態調査 |
| | | ・廃棄血削減プロジェクト |
| (2) 血液製剤の適正使用のための調査研究 | → | 茨城県輸血・細胞治療ネットワーク など |
| (3) 血液製剤の適正使用のための講演会等の開催 | → | 教育講演、研修会等の開催 |
| (4) 安全な輸血医療の向上のための輸血関連認定
看護師の養成支援 | → | 輸血関連認定看護師養成部会 |

【ホームページ】

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/yakumu/yakumu/kenketsu/goudou_yuketsu.html



令和7年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業

茨城県合同輸血療法委員会からの企画提案



1 研究課題名

「在宅・小規模医療施設における適正・安全な輸血」を確立するための
好事例掘り起こしと詳細調査

2 研究概要

県内で行われている「在宅輸血」と「小規模医療施設での輸血」の適切な
輸血判断と安全な施行を持続させる仕組みを構築する。

- ①県内小規模・在宅輸血施設に対する輸血の詳細な実施状況調査を行い、
好事例の把握を行う。
- ②県外の多数例小規模・在宅輸血実施施設との連携を行う。
- ③成果を「茨城県小規模・在宅輸血施設 実施ガイド」として公開する。
- ④小規模・在宅輸血施設と県・血液センター・合同輸血療法委員会で
継続的に確認し、ブラッシュアップする仕組みをつくる。

茨城県における小規模医療施設での輸血

在宅療養支援診療所 +
R5供給実績 赤血球液 $\leq 50\text{U}$

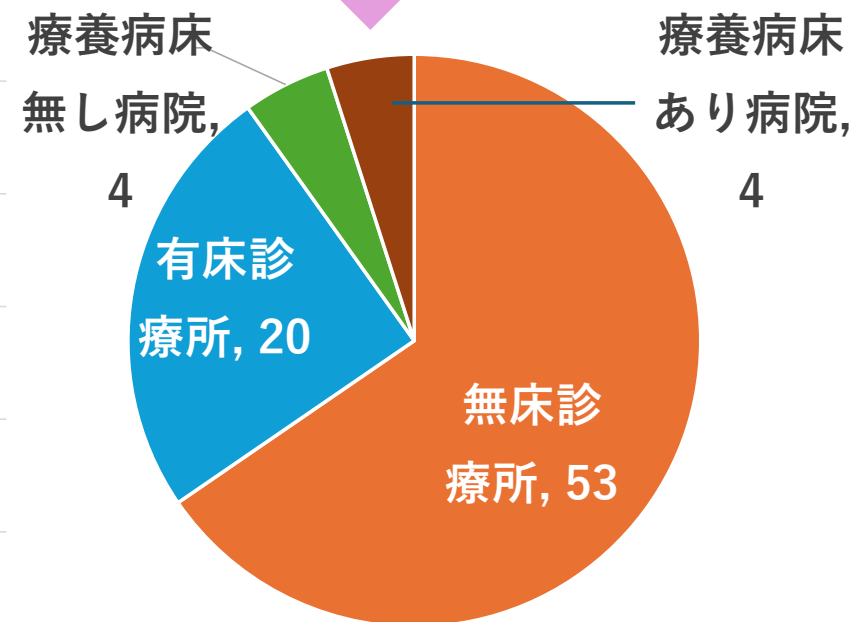
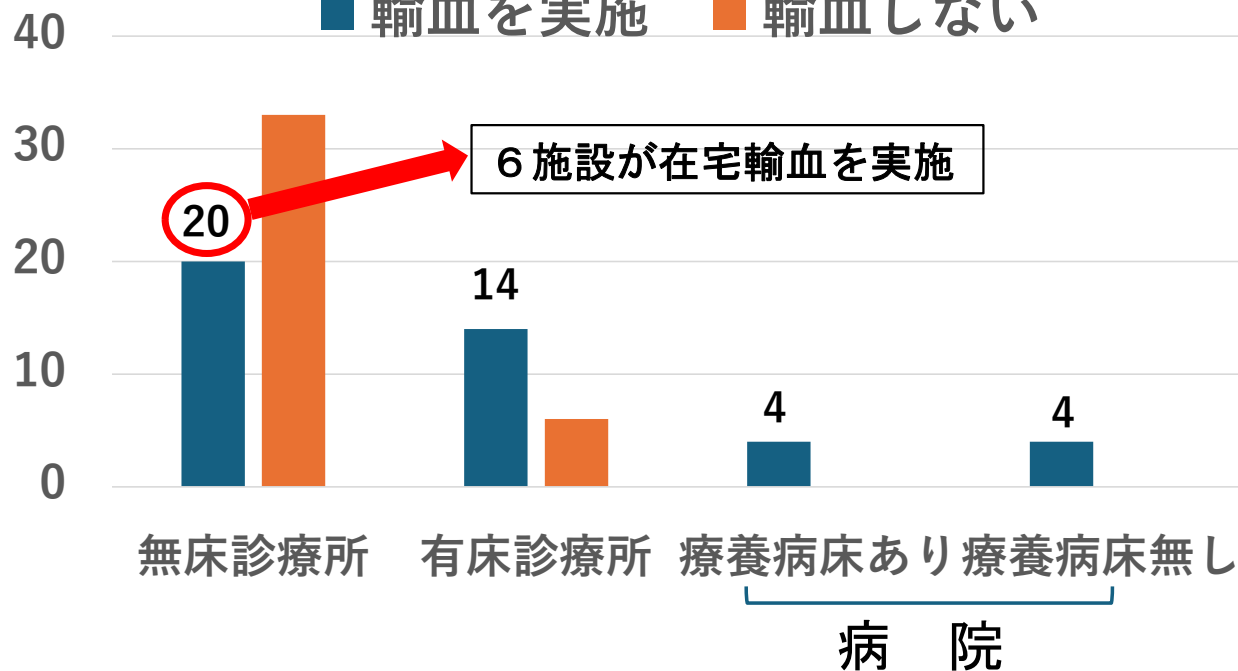


261施設

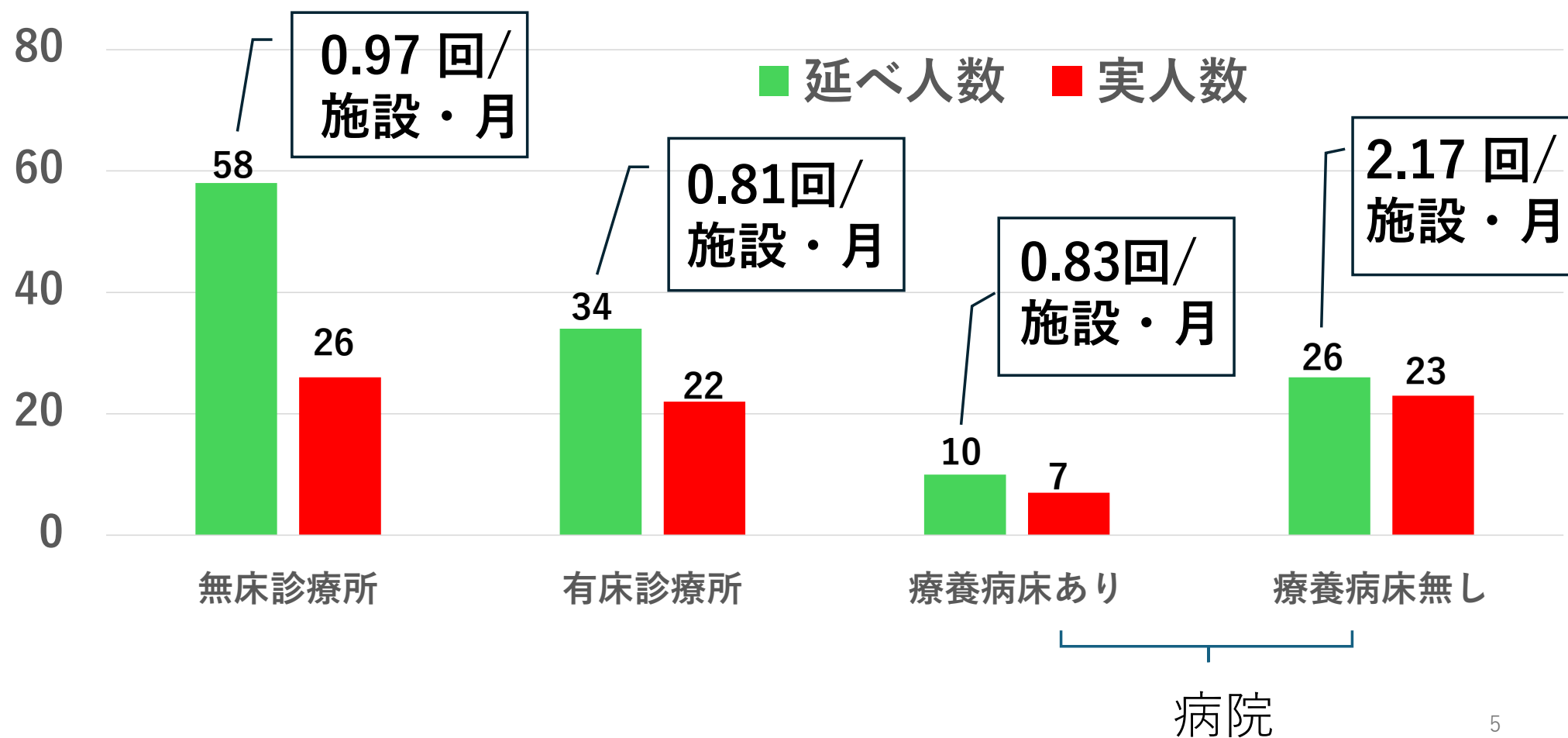
81施設 が回答

81 施設の輸血実施状況

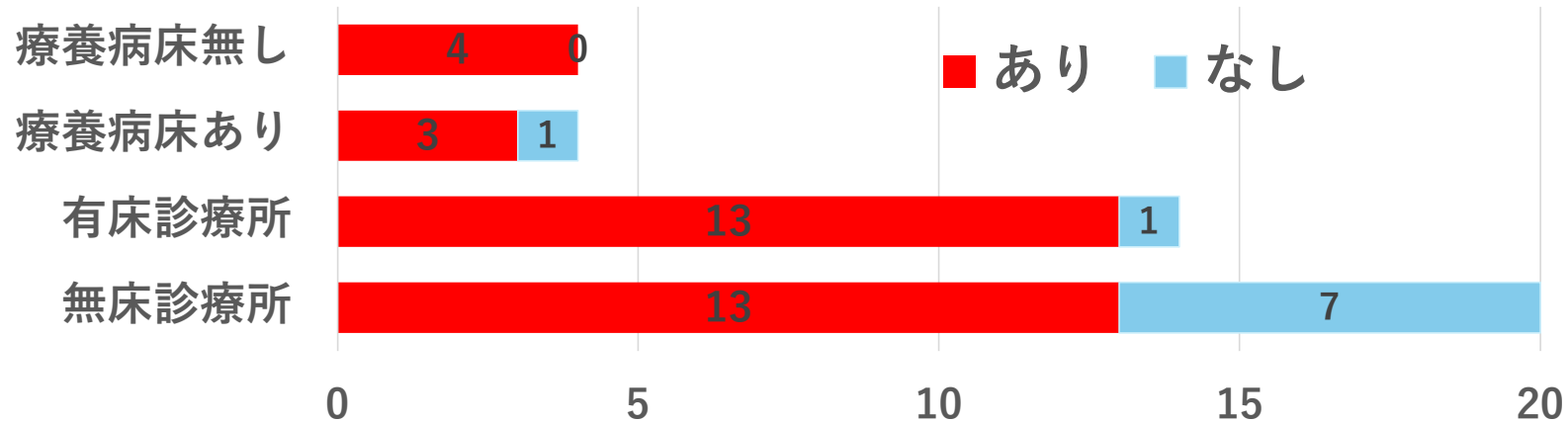
■ 輸血を実施 ■ 輸血しない



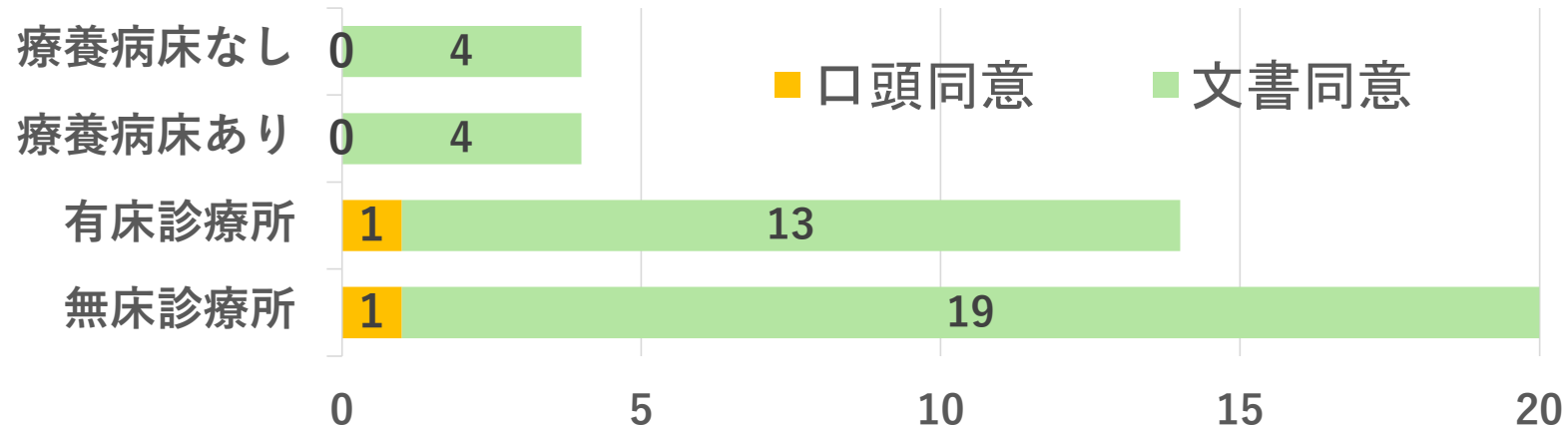
3 か月間の輸血回数



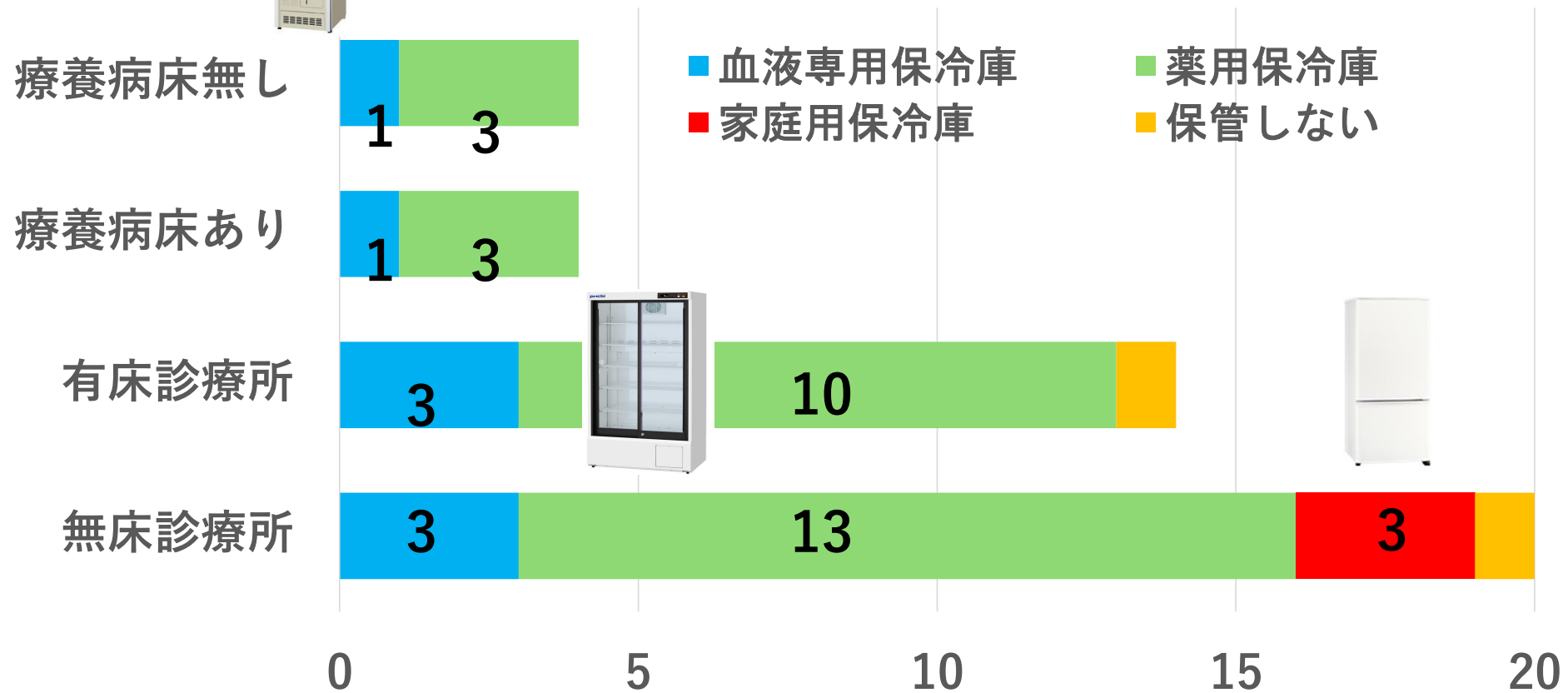
輸血に関するマニュアルの有無



輸血同意取得の方法

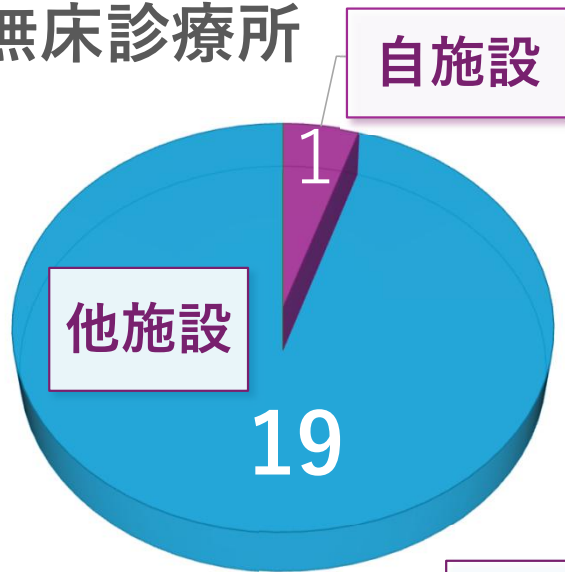


赤血球製剤の保管場所



クロスマッチはどこで行うか？

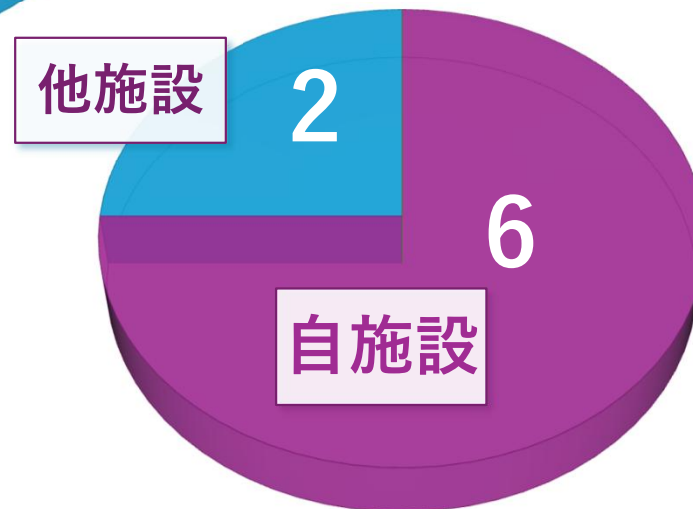
無床診療所



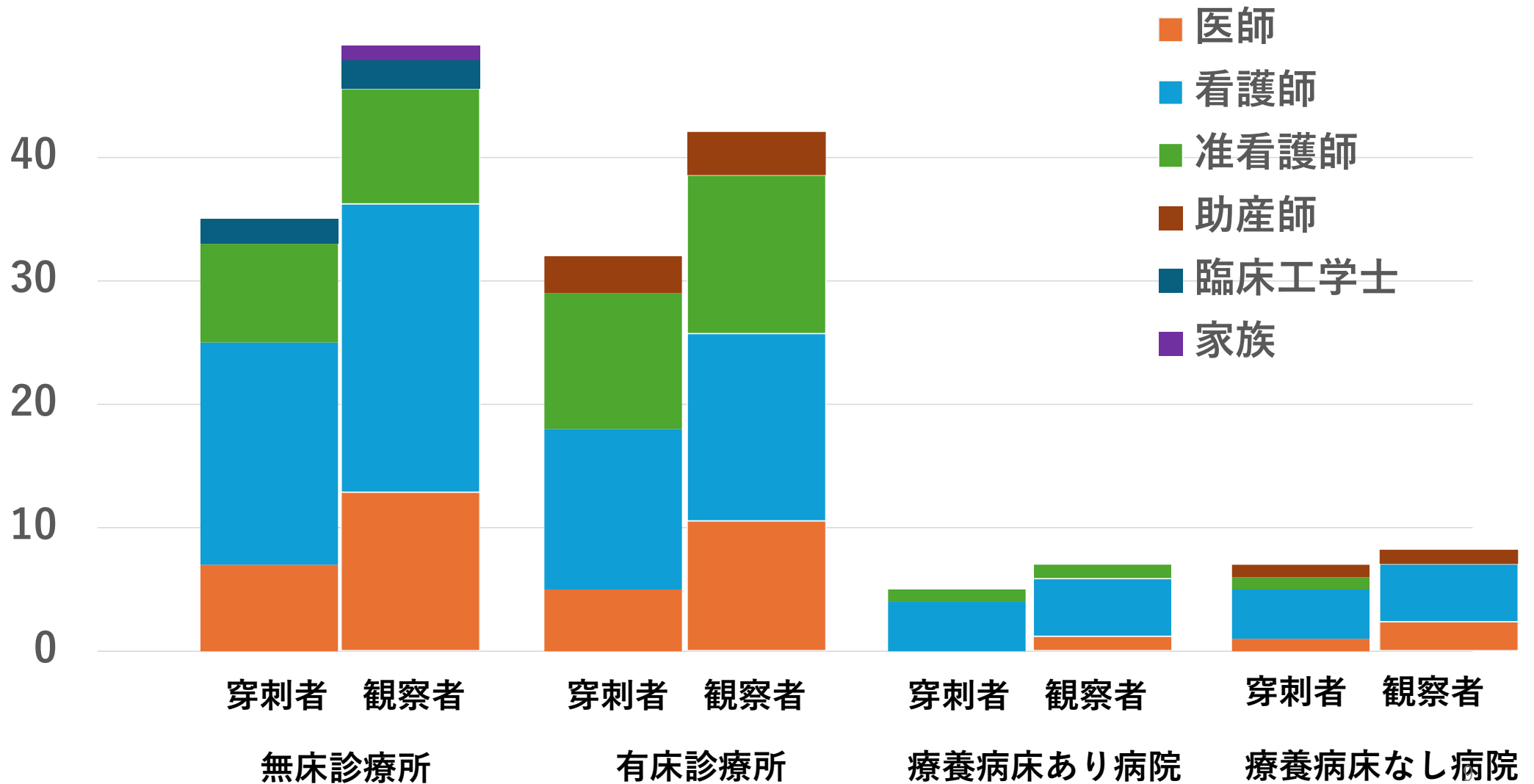
有床診療所



病院

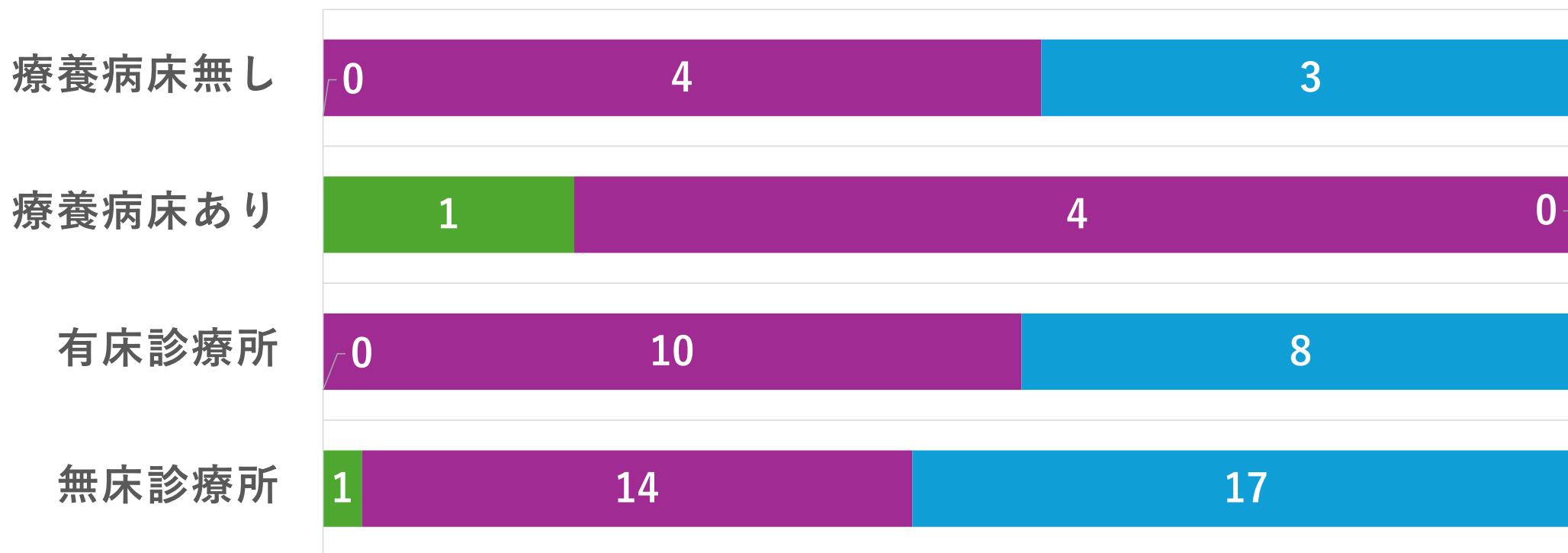


輸血用穿刺者と輸血中の観察者



輸血中の状態変化時への対応（複数回答有り）

■ 決めていない ■ 医師に指示を仰ぐ ■ 医師が現場に行く



医療施設への聞き取り調査（施設１：無床診療所）

項目	聞き取り結果
直近1年の輸血件数	赤血球液40回, PC 4～5回
手順書	ない
インフォームドコンセント	輸血同意書あり 輸血しない選択肢も提案している
血液型検査	衛生検査所
交差適合試験	予め採血・訪問してくることも 2時間で結果が出る。紙で確認
保管	家庭用冷蔵庫 セパレートされた区画で保管 庫内温度を庫外で監視
搬送	クーラーボックスに包んだ保冷剤を容れ30分 以内で搬送

医療施設への聞き取り調査（施設１：無床診療所） その２

項目	聞き取り結果
確認	搬出時、輸血前 SWさんにも協力してもらいダブルチェック
患者の観察	15分間は医師・看護師（他施設訪問看護師も） その後家族が観察
副反応などへの対応	輸血に限らず何かあれば連絡を受ける 最速で訪問できる医師・看護師が行く 医師への連携は迅速で看護師に不安はない
参考になる点	衛生検査所で輸血前検体の保管が行われるようになっている。フットワークが軽い
施設からの要望	迅速な運用を妨げないような指導

医療施設への聞き取り調査（施設２：無床診療所）

項目	聞き取り結果
直近1年の輸血件数	最近はない
手順書	あり 病院と同じ基準
インフォームドコンセント	危険性、負担について十分説明 文書同意
血液型検査	紹介元病院のものを使用→衛生検査所
交差適合試験	衛生検査所 結果はFAXで受信
保管	薬品保冷庫
搬送	クーラーボックス 保冷剤を入れる
確認	ダブルチェック
患者の観察	30分は医療者が居る。家族に注意点を話し交代
副反応などへの対応	医師へ直接架電

医療施設への聞き取り調査（施設２：無床診療所）その２

項目	聞き取り結果
その他	・ 関係者の負担、安全性、患者への経済的負担から輸血を在宅で行うべきではない 輸血が必要であれば病院へ行くべきで、行けない患者には輸血の適応は無いのではないか
要望	・ 公的なガイド作成などの要望は低い ただし、看護師や臨床検査技師など在宅に関わる職種の中では血液製剤の厳しい管理が十分に理解されていないこともあり、その様な方へのガイドは理解できる ・ ルールが臨機応変な対応を妨げては困る

医療施設への聞き取り調査（施設３：有床診療所）

項目	聞き取り結果
手順書	あり
交差適合試験	衛生検査所 夕方に依頼し翌朝結果がでた
その他	直近7か月前までは輸血をしていたが、施設長が代わり、 危険性のある医療はできるだけ避けること となった。以降、輸血は行わないこととなった
その他 ご意見	・ 輸血は危険を孕んでいるのでガイドなどでガチガチに規定しても良い ・ 輸血に関しトレーニングを受けたスタッフが行うべき ・ 人が代わっても同じレベルの医療が提供されるべき ・ 医療の質をどう担保するのか、何を指標とするのか、不明で方法論がない。検証が必要

医療施設への聞き取り調査（施設４：有床診療所）

項目	聞き取り結果
直近1年の輸血件数	年に1回あるか無いか
手順書	輸血に関する日赤からの輸血情報等の写真付き情報媒体などを束ね手順書としている
インフォームドコンセント	分娩についてのリスクとして一括して取得 実際の輸血時には家族にも同意を貰っている
血液型検査	お産に伴い不規則抗体と共に確認
交差適合試験	緊急大量出血での輸血であり省略する
保管	血液製剤到着後 直ちに使用するため保管しない
確認	納品時：医師と搬送者、 輸血時 医師と看護師
観察	看護師が不定期に確認 具合が悪いと判断すれば中止し病院へ搬送
その他	・ 分娩時にはHb8に落ちても輸血はしない ・ 羊水込み出血量2Lとなれば輸血を考慮 ・ 医師が血液製剤の発注、受領、輸血実施まで行わざる得ない

課 題

■私たちの調査に関わる課題

- 1) 今回の聞き取りは、聞き取りで終わってしまい
実際の運用・使用している物の確認までができていない
- 2) 返信が無い施設の実情が不明（実態把握の難しさ）
- 3) 聞き取り数が少ない

■聞き取りから見いだされた課題

- 1) 血液専用保冷庫を持っていない施設も多い
- 2) 頻度が多い施設もあれば、極めて少ない施設もある
- 3) 運用手順（マニュアル）が作成されていない施設もある
- 4) 訪問看護ステーションを含めた関係者によるネットワークの構築

県外施設等との連携 ～2026.2 総会 教育講演～

- 1 日 時 令和8年2月7日（土）午後2時30分
- 2 場 所 茨城県立中央病院 研修棟 会議室A
- 3 後 援 （一社）日本輸血・細胞治療学会 関東甲信越支部、（一社）茨城県医師会、
（一社）茨城県病院協会、（公社）茨城県看護協会、
（一社）茨城県病院薬剤師、（公社）茨城県臨床検査技師会

3 内 容

(1) 令和7年度茨城県合同輸血療法委員会 活動報告

(2) 講演

① 「在宅・小規模医療施設における安全な輸血療法
～在宅医療における輸血の取組みについて～」

講師：大橋 晃太氏（トータス往診クリニック/NPO血液在宅ねっと）

② 「在宅輸血の現状～訪問看護師の視点から～」

講師：大久保 智代氏（ゆいナースステーション管理者）

(3) 令和7年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業報告

4 参加者 46名（県内の輸血医療に携わる医師、看護師等）

茨城県合同輸血療法委員会 2025年度総会

～在宅・小規模医療施設での輸血を支えるために～

令和8年2月7日（土）14:30～16:30

14:30 開会

14:35 茨城県合同輸血療法委員会 活動報告

茨城県合同輸血療法委員会 世話人（水戸医療センター副院長） 福永 潔

14:45 「在宅・小規模医療施設における安全な輸血療法
～在宅医療における輸血の取組みについて～」

トータス往診クリニック/NPO血液在宅ねっと 大橋 晃太
（座長：水戸済生会総合病院 篠永 貴司）



15:45 「在宅輸血の現状～訪問看護師の視点から～」

（一社）在宅看護センター（代表理事）ゆいナースステーション 管理者 大久保 智代
（座長：茨城県看護協会専務理事 長山 一恵）

16:15 令和7年度血液製剤使用適正化方策調査研究事業報告

茨城県保健医療部医療局薬務課

16:30 閉会

日 時 令和8年2月7日（土）14:30～16:30
（受付開始時間 14:00）

会 場 茨城県立中央病院 研修棟 会議室A（定員100名）※定員になり次第、登録を
締め切らせていただきます。
（住所：茨城県笠間市笠間6-5-28）

会 費 無料 事前参加登録が必要です

～本総会には以下の制度の単位となります～
日本輸血・細胞治療学会等/指定する認定制度

主催：茨城県合同輸血療法委員会

共催：茨城県 茨城県赤十字血液センター

後援：（一社）日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部 （一社）茨城県医師会

（一社）茨城県病院協会 （公社）茨城県看護協会 （一社）茨城県病院薬剤師会

（公社）茨城県臨床検査技師会

お問い合わせ先 茨城県合同輸血療法委員会事務局（茨城県保健医療部医療局薬務課内）

TEL: 029-301-3384 FAX: 029-301-3399



←参加登録はこちらから
<https://forms.office.com/r/nmHn3FSGR7orignelpLk>
（FAXの場合）裏面の申込用紙にて
県業務課まで申込をお願いします。
（登録期間）
2026年1月5日（月）～ 2月2日（月）

初回に確認すべきこと			
	☑ or ×	確認者	注記
必須			ABO式血液型検査が2回してある。 1
必須			Rh式血液型検査が2回してある。 1
			不規則抗体検査がしてある。 2
(必須)			輸血同意を取得している。 3
1：2回は時を変えての検査。2回目が交差適合試験の時でも良い。			
2：必須ではない。交差適合試験陽性の場合は必須。			
3：時間的に間に合わない時は救命を優先。			

血液製剤発注時に確認すること			
	☑ or ×	確認者	
必須			患者さんの血液型を確認した。
			患者さんの不規則抗体を確認した。
			交差適合試験用の血液は輸血3日前以内に採血した。 1
必須			交差適合試験を依頼した。
1:これまでに輸血を施行し不規則抗体検査をしていない場合。			

記録保存可能な手順書

患者さんに輸血する前の確認			
	☑ or ×	確認者	
血液製剤について			ダブルチェックのため2つ同じ項目あり
必須			患者さんの血液型と血液製剤の血液型が同じである
必須			患者さんの血液型と血液製剤の血液型が同じである
必須			交差適合試験で適合
必須			交差適合試験で適合
必須			血液製剤の使用期限が使用日以上ある
必須			血液製剤の使用期限が使用日以上ある
必須			外観に異常を認めない
必須			外観に異常を認めない

連絡先の確認			
	☑ or ×	確認者	
必須			異常時の連絡先を伝えた

輸血前			
	☑ or ×	確認者	
バイタルサイン確認			
意識			
体温		°C	
SPO2		%	
脈拍		回/毎分	
血圧		mmHg	
呼吸数		回/毎分	
開始時刻		時 分	

輸血後5分			
	☑ or ×	確認者	
バイタルサイン確認			
意識			
脈拍		回/毎分	
血圧		mmHg	
呼吸数		回/毎分	
症状		輸血後に生じたもの	
	動悸	吐き気	腹痛
			その他（記載）

今後の展開

「在宅・小規模医療施設における適正・安全な輸血」に向けて
必要な継続した取組み

大目標

- 1) 手順書やガイドを関係者で協働作成するとともに、研修会などを通じて最新情報の共有や研鑽に努め、全体の底上げを図る。
- 2) 在宅医療においても適正な輸血について考える。

1) 手順書やガイドを関係者で協働作成するとともに、研修会などを通じて最新情報の共有や研鑽に努め、全体の底上げを図る。

■もっと声を上げない施設の実情を知りたい！

⇒昨年度回答の無い施設へ直接声がけを行うなど
在宅輸血や小規模医療機関の実態把握に努め、
訪問看護ステーションを含めた関係者間のネットワークを構築する。

■診療体制の実情を考慮しながら、安全な輸血医療提供を図れる手助けをしよう！

⇒保管場所の温度確認を支援する。
⇒使いやすい・記録を残せるガイドを協同作成し提供する。
⇒動画・手順書リーフレットの作成を行い分かりやすく輸血手順を伝える。

2) 在宅輸血でも適正輸血を考える

■ 輸血の中止タイミングが難しい

横須賀市立総合医療センター 荻野先生



輸血開始前からメリットとデメリットの説明ができる支援を行う。

■ 病態に応じ必要な輸血を行い、輸血効果を確認する働きかけを行う。